

# 「教育県大分」創造に向けた地域別意見交換会 in 宇佐 開催概要

〔開催日：平成30年10月4日（木）〕

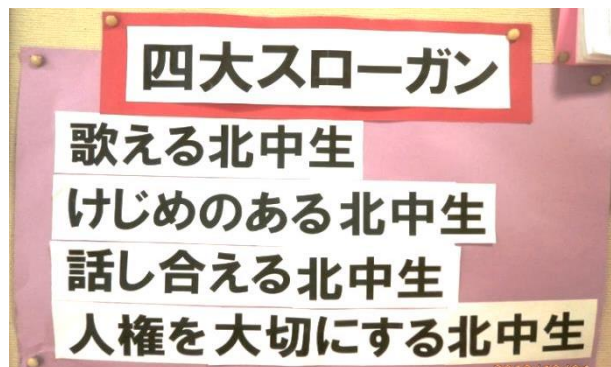
## 〔学校訪問①〕 宇佐市立北部中学校

〔訪 問 者〕 大分県教育委員会（工藤教育長、教育委員、理事、教育次長 他）  
宇佐市教育委員会（竹内教育長、教育委員 他）

宇佐市立北部中学校では、問題発見能力・自己解決能力の向上を目指して、生徒会活動の充実を重点目標に掲げて取組を行っています。

「北中四大スローガン」のもと、学年・全校の執行部を中心に、生徒自身が短期のPDCAサイクルを回す中で、生徒の差別を許さない感性や実践力が醸成され、主体性や学びに向かう力が育ち、「生徒と共に創る授業」が充実することで学力が向上しています。

また、4年前に環境学習の一環として北部中学校から始まった「ふるさとクリーン活動」は、地域の方と連携した海岸の清掃活動へと発展し、近隣の小学生や園児もクリーン活動に参加するなど、ふるさとを大切にする思いの輪が広がり、持続的・発展的な取組となっていました。



自主的な生徒会活動の支柱となる  
「北中四大スローガン」

## 〔学校訪問②〕 宇佐市立天津小学校

〔訪 問 者〕 訪問先①に同じ

宇佐市立天津小学校区では、総合的な学習の時間を中心に教科横断的なカリキュラムを作成し、大横綱双葉山の生誕の地であることを活かして郷土の偉人の功績や生き方について学び、パンフレットにまとめる活動等、ふるさと天津を誇りにする子どもを育てています。

また、校内相撲大会や相撲甚句、運動会での相撲体操など、相撲をキーワードに保護者・地域と連携した取組も行っています。

当日の授業参観では、「自分の考えを持ち、伝え合う場の設定」をすることで活発性の向上を目指す姿や、ペア・グループを活用した対話的で深い学びに向けた取組が行われていました。



ホワイトボードを使い対話的な学びを促進

## 〔学校訪問③〕 大分県立宇佐高等学校

〔訪 問 者〕 訪問先①に同じ

県立宇佐高等学校では、タブレット・電子黒板を活用した授業が行われ、ICT機器を授業改善のためのツールから情報活用能力を習得するための学習ツールへと発展させていくための環境整備や研修を進めています。

当日は、「宇佐高校のことを知らない中学生や保護者が多いのではないか」という立地上の問題意識から、「宇佐高通信」を旧宇佐市内の中学校3年生への配布や、Facebookを活用した情報発信を行うとともに、旧宇佐市内の5つの中学校への出前授業（ジョイント授業）や宇佐神宮でのインバウンドナビゲーターなど、地域に根ざし地域を生かす活動が紹介されました。



電子黒板を活用した授業

【意見交換会テーマ】「芯の通った学校組織」を基盤とした大分県版「チーム学校」の実現  
(1) 地域・保護者との連携による「ふるさと教育」の推進について  
(2) 小・中学校の思考力・判断力・表現力等の向上について

【出席者】 学校訪問①、市教育次長、宇佐市立小・中学校長（小学校5校、中学校3校）、及び宇佐高等学校長

意見交換会では、市全体の取組状況の説明の後、市の教育委員・各校長からの現状・課題についての説明も交えながら活発な意見交換を行いました。

### (1)地域・保護者との連携による「ふるさと教育」の推進について

- ▶「ふるさと教育」における学校と地域との連携体制をどのように作っていくかが課題である。
- ▶カリキュラムマネジメントが重要であり、学校運営協議会の中で持続発展的な取組になるよう検討したり共通理解したりすることが重要。
- ▶中高では地域のよさだけでなく、地域の課題を取り上げて、子どもの未来を見据えながら、社会・地域貢献に向けた取組を考えさせることも重要。
- ▶地域のよさや、伝えていくべきことを、社会教育や自治会も一緒になって腰をすえて論議し、教育内容を精選していく場が求められる。
- ▶コミュニティ・スクールを充実させ、地域振興と学校教育の相関性を高めることが重要。



すばらしい取組みを先へと進めてほしい（工藤県教育長）

### (2)小・中学校の思考力・判断力・表現力等の向上について

- ▶組織的な授業改善の取組により不断に改善点を見出す  
「めあてをアウトプット型で提示する」取組を全教職員で進める中で、深い学びにつながる交流活動の重要性が再認識された。さらに、個別に支援が必要な子どもに対して、交流内容を「見える化」する等の取組が有効であると共通理解することができた。
- ▶付けたい力の系統性を明確にした校種間連携  
連携型小中高一貫教育の「地球未来科」では、付けたい力を12年間を見通して系統的に設定している。そこで付けたい力を生かして、他教科や児童会活動でも思考力・判断力・表現力等が育つよう取り組んでいる。
- ▶幼・小の連携の重要性  
幼児期は先の伸びにつながる大事な時期。「何から学ぶか」という視点を持って「育てたい10の姿」を見据えた教育を展開している。小学校の教員も幼児期の学びについてしっかり理解することが大切。



地元に生業を持ち自信を持って生きる子を（竹内市教育長）

### 【主な意見】

- ▶ふるさと教育だけでなく、学校に求められることは多い。外のリソースを活用していかに進めていくかということについて、働き方改革を含め、ム学校を意識して様々なマネジメントの模索をお願いしたい。
- ▶宇佐市内の学校は伝統的に授業力が高く県と足並みをそろえてしっかりと授業改善に取り組んでおり、総合的な学習の時間では学力向上の視点で実践することができている。また、「アウトプット型」といっためあての方向性は大いに参考になる。

### 【意見交換を終えて(工藤県教育長から)】

ふるさと教育については、今、豊かな環境で生活できている場所に10年後はほとんど人がいなくなる可能性があるという認識に立ち、地域とともにある教育の重要性をしっかりと訴えていく必要があります。思考力・判断力・表現力等の育成では、個に応じた指導、習熟度別のコースガイド、個人カルテ、生徒による授業評価、近隣中学校の教科合同研修のすばらしい取組がなされていて、県の学力向上の取組は宇佐市から持ってきたのではないかと思います。物理的には永久運動はないそうですが、教育は永久運動しなければいけません。絶えず子どもたちのために何ができるかを考えながら先に進んでいただきたい。